

交換留学生を対象としたスタディ・スキル育成のための教育実践

鈴木 美穂

(外国語学部日本語・日本語教育学科)

Study Skills Training for Exchange Students

Miho SUZUKI

(Department of Japanese and Japanese Language Education, Faculty of Foreign Language Studies)

本学交換留学生日本語学習支援クラスでは日本語力向上に加え、スタディ・スキルの向上を目的とした教育実践を行っている。その教育実践のひとつとして「新宿フィールドワーク」という体験型プロジェクトワークを取り入れている。このプロジェクトワークは、教室での語学学習授業の形態を離れ、情報収集、現地調査、発表などのスタディ・スキルを身につけ学部の講義やゼミに活かしていくことが目的である。また、教室外活動を通して学習者の主体的な行動を促し、留学生活における学習面、生活面の両面を充実したものにするための手助けとなるような指導を心掛けている。

本稿では、2017年度日本語教育学会第2回支部集会で行った口頭発表をもとに、交換留学生に必要なスタディ・スキル育成のための教育実践について報告する。

キーワード：日本語教育、交換留学生、日本語学習支援、スタディ・スキル

はじめに

本学の交換留学生（以下交換生）は日本語のレベルによって日本語学習の履修形態が異なる。学部の授業のみ履修する中上級レベルの交換生は日本語学習の機会が少なく、学部の授業に必要とされる日本語力を持ち合わせていない交換生も多い。本学留学生別科はこのような中上級レベルの交換生を対象とした日本語学習支援クラス（以下学習支援クラス）を開講し、60分×2コマ、週2回の日本語の授業を行っている。

近年、学習支援クラスの授業後のアンケートやインタビューなどから、日本語の難しさだけでなく学部の授業に関して「講義の内容がよくわからない」「テキストの読み方がわからない」「発表の仕方がわ

からない」「レポートの書き方がわからない」という声を耳にすることが多くなった。これは、日本語能力の問題だけではなく、スタディ・スキルに関する難しさもあるのではないかと考え、交換生と本学教員にアンケートを行った（鈴木、竹田2017）。その結果、交換生が必要だと感じる日本語技術は「聴解」「語彙」「レポート作成」だった。一方、学部教員が交換留学生に求める日本語技術は「レポート作成」「聴解」「読解」だった。学習支援クラスでは、このような交換生のニーズに沿って、日本語力向上に加え、論文講読、口頭発表技術、レポート作成技術などスタディ・スキルの向上を目的とした教育実践を行っている。

表1 スタディ・スキル学習項目

テキスト スキル	『スタディ・スキル入門 大学でしっかりと学ぶために』	『ベーシックセミナーテキスト』目白大学	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』	『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』	『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』
読む	論説文の読み方 批判的な読み方	参考文献や関連する文献の読み方 レポートを読む	文章の要約 読書レポート 音読	クリティカルリーディング	本を読む
聞く	人の話を聞く 講義の受け方	講義の受け方 ノートの取り方	受講の心得 ノートの取り方	講義を聞いてノートを取る	講義の受け方
書く	ノートやメモの取り方 レポート作成 論文作成	ノートの取り方 レポートの書き方	ノートやメモの取り方 レポート作成 論文作成	レポート レビュー 論文などをまとめる	レポートを書く レジュメの作成
話す	意見を述べる 議論 プレゼンテーション (レジュメ、ポスター、ppt)	コミュニケーションの技術 プレゼンテーション	口頭発表練習	プレゼンテーション (口頭発表)のやり方	ディスカッション 討論プレゼンテーション ポスターセッション
調べる	情報検索の仕方 フィールドワーク	図書館活用術 情報活用能力 (インターネット)	情報の集め方 情報源へのアクセス方法	図書館とデータベースの使い方 情報整理	図書館で資料を探す インターネットで情報を探す

1. スタディ・スキル

天野他(2008)はスタディ・スキルを「大学生が学ぶうえで必要とされる基本的な学びの技術」と定義しているが、具体的にはどのようなスキルが必要なのだろうか。本学ベーシックセミナーテキストをはじめとする「スタディ・スキル」が反映されている日本の大学の学部生を対象とした初年次教育用のテキストを見ると表1のような学習項目が挙げられている。主なスタディ・スキルは、テキストや資料、論文などの内容をつかむ「読む技術」、人の話や講義を「聞く技術」、ノートテイキングやレポート、論文などを「書く技術」、ディスカッションやプレゼンテーションなどに必要な「話す技術」、図書館やデータベースの使い方、インターネットでの情報検索などの「調べる(情報収集)技術」の5つである。また、「考える技術」「大学とは」「キャリアデザイン」などが明記されているテキストもある。これらのスキルは一つ一つ独立しているわけではなく、講義を聞いてノートをとる、資料を読んで情報収集するなど、相互につながりをもっている。日本の大学の学部生が身につけなければならないスタディ・スキルは、日本の大学に留学している交換生にも当然求められるスキルではあるが、交換生は留学期間が半年

から1年と短く、学部の学生と同様の初年次教育を受ける時間や機会は限られている。この限られた時間でこれらのスタディ・スキルすべてを学ぶことは難しいが、日本の大学の授業で必要なスタディ・スキルの基礎を身につけるため、学習支援クラスでは、論文やテキストを読むための読解指導、まとまった内容を聞くディクトグロス(聴解指導)、グループディスカッションやプレゼンテーションなどの口頭表現指導、総合的なスキルを知るためのプロジェクトワークなどの実践活動を行っている。

2. 本実践

学習支援クラスではこれらの実践活動のひとつとして「新宿フィールドワーク」という体験型プロジェクトワークを行っている。この体験型プロジェクトワークは日本語4技能の育成とともに、教室での語学学習授業の形態を離れ、情報収集、現地調査、プレゼンテーション、原稿(レポート)作成などのスタディ・スキルを総合的に身につけることが目的である。短期間ではあるが、プロジェクトワークの方法を知り、実践することで、学部授業で行われる学習活動に活かすことができると考える。本稿では交換生がこのプロジェクトワークをどのように受け止

めたかを事後アンケートを通じて分析、考察する。

(1) 概要

本実践は学習支援クラスを履修している交換生を対象に、学期の半ばに行われる。2016年度秋学期は、授業履修者11名（韓国、中国、台湾）が参加した。このうち日本語能力試験N2合格者は5名、N1合格者は5名であった。交換生は3名以下のグループになり、新宿区のフリーペーパー『五感で楽しむ新宿観光ガイドブック平成26年度版』（以下『新宿ガイドブック』）をもとに、本学が所在する新宿区の9つのエリア（落合、大久保、西新宿など）の中から興味のあるエリアを選び、そのエリアの歴史や見どころについて調査する。そして授業時間外に各自が実際にそのエリアを訪れ、調査したことや体験したことなどについてパワーポイント（以下ppt）を用いて発表する。発表後はグループごとにフィードバック、個人にアンケートを行う。プロジェクトは導入から発表、フィードバックまでを約3週間で行う。

(2) 学習目標

本実践では、大学の授業を支障なく受けるため、また、充実した留学生活を送るためとして以下の4つを学習目標とする。

- ① 日本の大学の講義やゼミでの勉強の仕方を知る
- ② 学部の講義やゼミに生かせるスタディ・スキルを身につける
- ③ 留学生活を始めた地域（新宿区）を知り、慣れる
- ④ 「体験」を通して主体性や行動力を身につける

(3) スケジュール

表2に本プロジェクトワークのスケジュールを示す。

まず、導入では、全体スケジュールを見ながらプロジェクトの目的、方法などについて説明する。『新宿ガイドブック』で地理を確認しながら各エリアの特徴を解説し、グループごとに、調査エリアが重ならないように選定をする。前学期に発表した交換生のpptを提示し、調査の仕方や、わかりやすいpptはどんなものかなどを実際に見て発表までの具体的

な流れを把握させる。

フィールドワークでは現地に行った日にちがわかる写真と、現地と自分が写っている写真を必ず撮り、発表の際に提示することとした。調査地域の歴史や見どころなどについては『新宿ガイドブック』だけではなくインターネットでも調査を行い、調べたサイトなどの出典を必ず明記するように周知した。原稿作成では、調査内容を丸写しするのではなく、自分のわかる言葉や文型、聞き手がわかる言葉に言い換えて原稿を作るように説明し、さらに、個別に原稿チェックをする際に時間をとって確認、言い換えをさせた。調査した情報をまとめるだけではなく、発表には必ず考察や感想を入れるように指導した。レポートや研究発表には「自分が考えたこと」を伝える必要があるということを、学生に実践を通して認識させるためである。

発表は各グループ10分で行い、原稿を読むのではなく、情報カードに要点をまとめて発表するように求めた。聞いている人は発表グループについてのコメントシートを記入し教員に提出する。教員は発表グループごとにコメントシートを作成し、後日、交換生のコメントシートとともに発表者に渡す。発表後、グループごとにフィードバックを行う。最後に、発表原稿をレポートとして提出させることにしている。

表2 「新宿フィールドワーク」スケジュール

週	活動場所	活動	活動内容	時間
1	教室内	導入	プロジェクトについて グループ、エリアを決める 調査方法 プレゼンテーションの方法	60分 ～ 90分
2	教室外 現地調査	フィールド ワーク	エリアの調査 各自で現地を訪れ調査する 各自で発表準備	半日 ～ 2日
3	教室内	発表 準備	ppt作成、発表原稿作成、 発表練習、発表原稿チェック	120 分
3	教室内	発表	発表10分+質疑応答3分 フィードバック、アンケート、 発表原稿の提出	120 分

3. アンケート調査の結果と考察

今後の実践活動をよりよくするために、プロジェクト後には、フィールドワークの良い点、難しかった点などを問う、記述を中心としたアンケートを行っている。2016年度秋学期は、授業履修者11名にアンケート(表3)を行った。本発表ではアンケートの中で特に注視したい項目(Q3～Q6、Q8)についての結果と考察を行う。

(1) 「新宿フィールドワーク」の難しかった点

Q3「新宿フィールドワーク」で難しかった点を記述式で質問した。「レポート(発表原稿)」(36%)と「調査」(36%)に関する回答が最も多く、それ以外では発表や時間管理、pptに関する記述があった(図1)。「レポート(発表原稿)」が難しい理由としては「いろいろなことを考えなければならない」「簡単だが書くことが難しい」「聞きやすい言葉を使わなければならない」などが挙げられていた。このことから調査したことをまとめたり、まとまった長い文を書いたりすることが難しいと考えている学生が多いことがわかる。「調査」が難しいと答えた理由として「深く理解するためにはいろいろな調査をしなければならない」「調べるのに困った」「思ったよりネットの資料が少ない」などの記述があり、情報収集に関して難しさを感じていたようだ。「ppt、発表」に関しては「初めての経験だったから」「自

分(派遣元)の大学ではこのような発表をしたことがない」という記述もあり、日本の大学での発表の仕方を知る良いきっかけになったのではないかと考えられる。

(2) 「新宿フィールドワーク」のおもしろかった点、良い点、

Q4「新宿フィールドワークのおもしろかった点」、Q6「新宿フィールドワークの良い点」を問う記述式の質問では、いずれも「体験」に関する記述が多く、次いで「知識」に関する言及が多かった。「体験」に関するコメントでは、「友達とどこかに行く、相談する、作ることが面白かった」「直接自分で決めたところに行った、旅行にも勉強にもなった」などの記述から、交換生が学習目標である「体験を通して主体性や行動力を身につける」ことができた実感したといえる。「知識」に関するものでは「歴史を知った」「名所旧跡を知った」「調べる時と他の人の発表を聞く時、様々な面白いことを知った」など、調査を通して得た知識に関する言及が多くみられ、情報収集技術を身につけるためのきっかけにもつながっていると考えられる。また、「いろいろな場所、風景を見た」「特別な思い出になった」のようなフィールドワークで訪れた地域の景色の美しさや、街の雰囲気などを楽しんだというコメントも目立ち、地域を調査することによって学習目標である「留学生生活を始めた地域(新宿区)を知り、慣れること」ができたのではないかと考えられる。

表3 事後アンケート質問項目

Q1 調査する場所に何回行きましたか。 1回/2回/3回
Q2 この課題はどうでしたか。(複数選択可) 難しかった/簡単だった/面白かった/つまらなかった/大変だった/楽しかった/その他
Q3「新宿フィールドワーク」で、どんなことが難しかったですか。どうしてですか。
Q4「新宿フィールドワーク」で、どんなことがおもしろかったですか。どうしてですか。
Q5「新宿フィールドワーク」ではどんなことが上手になりましたか。どうして上手になったのですか。(複数選択可) 発表/作文/聴解/レポート(発表原稿)/会話/ppt/コミュニケーション能力/語彙(ことばが増えた)/その他
Q6「新宿フィールドワーク」の良い点は何ですか。
Q7「新宿フィールドワーク」の良くない点は何ですか。
Q8「新宿フィールドワーク」は日本語の勉強の役に立ちますか。理由も書いてください。

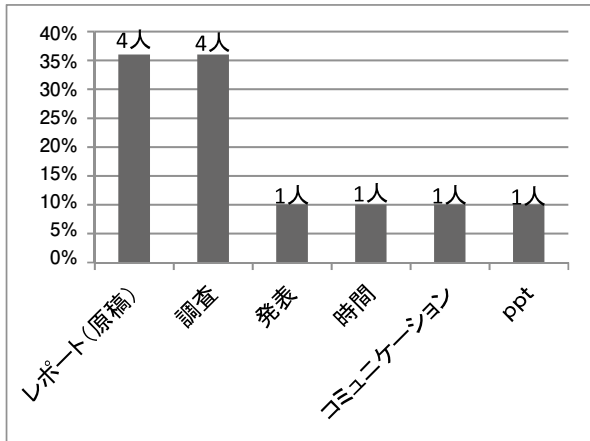


図1 Q3の結果

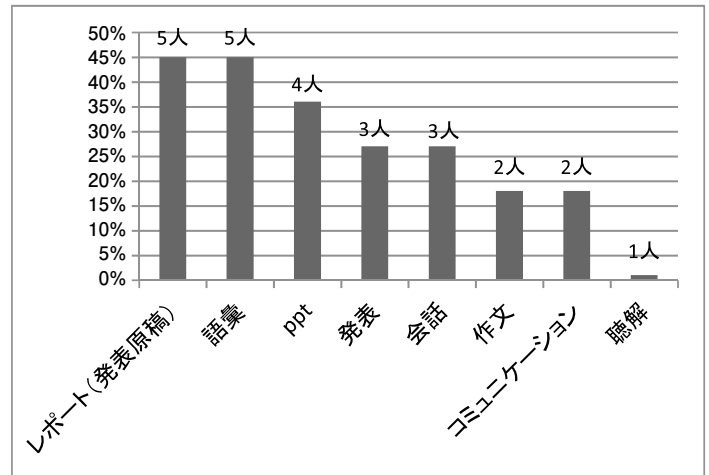


図2 Q5の結果

(3) 「新宿フィールドワーク」が日本語学習の役に立つ点

Q5「新宿フィールドワークではどんなことが上手になりましたか」という選択式（複数回答可）の質問では「レポート（発表原稿）」（45%）、「語彙」（45%）が最も多く、次いで「ppt」（36%）、「発表」（27%）、「会話」（27%）であった（図2）。Q8「新宿フィールドワークは日本語の勉強の役に立ちますか。理由も書いてください」という質問では「はい」が10名で「いいえ」が1名だった。「はい」と答えた理由では、Q5と同様に「語彙が増えた」ことが一番多く、次に多かった理由は「発表原稿」だった。

「レポート（発表原稿）」が上手になった、役に立つ、と答えた理由として「作っている途中でいろいろな思考が増えた」「発表する言葉を自分が考えなければならない」などのコメントがあり、構成を考えて原稿を作ることがレポートを書く前の準備として、役に立つのではないかと考えられる。

「語彙」は、目標とするスタディ・スキルには含まれないが、調査を通して新しいことばを調べる機会が多かったことがうかがえる。また、「普段使わない言葉をレポート（発表原稿）のために調べた」などのコメントから「自分のわかる言葉、聞き手がわかる言葉」を使うために、通常の授業より語彙を調べるが多かったのではないかと考えられる。目標とするスタディ・スキルだけではなく、自分で調べて語彙を増やすことの手助けにもなったといえる。

(4) アンケート結果から見たこと

交換生が身についたと感じているスタディ・スキルは「レポート（発表原稿）」の「書く技術」だった。プレゼンテーションを意識して作成する「レポート（発表原稿）」は難しいと感じた交換生が多く、学部のレポート課題やプレゼンテーションなどに取り組む前の練習になるといえよう。学習目標である「日本の大学の講義やゼミでの勉強の仕方を知る」ことができるプロジェクトであることがわかる。

次に、日本語力の面では、語彙が増えたことが日本語の勉強の役に立ったと答えた交換生も多く、レポート（発表原稿）作成の際に時間をかけて指導した「調べた内容を自分のわかる言葉や文型、聞き手がわかる言葉に言い換えて原稿を作る」ことを交換生が意識して取り組んでいたことがうかがえる。前述した5つのスタディ・スキルを身につけるためには、語彙を使うことが前提で、わからない言葉がわからないままではそのスキルを使いこなすことは難しいため、語彙を調べ、語彙を増やしていったのではないかと感じた。交換生にとってこのフィールドワークはスタディ・スキルと日本語力双方とも伸ばすことのできるプロジェクトであったといえよう。

一方、交換生が難しいと感じている「調べる（情報収集）技術」においては、日本語力の問題で調査することが難しいのか、調査の方法が難しいのかを把握することができなかったので、今後はその面も調査し、「情報収集技術」の指導に時間をとり、より具体的な指導をしていきたい。

最後に、体験、経験に関することでは、「見た」「行った」「知った」等の実体験に関するコメントが多く、学習以外の経験や体験が強く印象に残っているように見られる。この学習支援クラスは基本的に来日初学期に履修選択する学生が多い科目であるので、日本の大学への適応、地域への適応の手助けにもつながっていると考えられる。

4. 今後の課題

本実践は学期の半ばに行っているが、この新宿フィールドワークを通して得たスタディ・スキルを意識的に活用するように促していきたい。学期末に行っているプロジェクトワークと連動させて、身に付けたスタディ・スキルを使う機会を作り、スキルの向上を図る。交換生ひとりひとりが、自分が身につけたスキルを自覚し、それぞれのスキルや日本語力が伸びたという実感を持つことができれば、他の学部授業の課題に対して苦手意識を持つことなく、自信をもって取り組むことができるだろう。

今回のアンケートはプロジェクト終了直後に行っただけであるので、1学期間、全体を通した交換生のスタディ・スキルの変容はつかめなかった。この実践を学部の授業に活かすことができたか、また、どのような課題に対して活かすことができたかを調査し、交換生の学部授業の現状を把握していきたい。交換生が履修している学部の授業の課題についても教員に調査し、それに対応できるようなスタディ・スキルの指導を授業に組み込む必要もあるだろう。これは事例研究であり一般化することはできないが、実践とデータを重ねて調査を続けていくことが今後の学習支援クラスのよりよい指導につながって

いくだろう。

交換生が日本の大学で学ぶためのスタディ・スキルを知り、そのスキルを使いながら学部の授業を支障なく履修し、充実した留学生活を送れるよう、学習面でのサポートをしていくことが、学習支援クラスの役割だと考える。

《参考文献》

- 天野明弘、太田勲、野津隆志編（2008）『スタディ・スキル入門 大学でしっかりと学ぶために』有斐閣
- 公益財団法人新宿未来創造財団（2014）『五感で楽しむ新宿観光ガイドブック平成26年度版』公益財団法人新宿未来創造財団
- 目白大学（2013）『ベーシックセミナーテキスト』南田勝也、矢田部圭介、山下玲子（2011）『ゼミで学ぶスタディ・スキル』北樹出版
- 佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦編著（2006）『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会株式会社
- 佐藤智明、矢島彰、谷口裕亮、安保克也編（2007）『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』ナカニシヤ出版
- 鈴木美穂、竹田裕姫（2017）「交換留学生のための学習支援の取り組み-教員と学生の意識調査をもとに-」『目白大学高等教育研究』第23号 pp.53-58
- 吉原恵子、間淵泰尚、富江英俊、小針誠（2011）『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』実教出版株式会社
- （受付日：2017年10月26日、受理日2017年12月14日）